

—アンテナ指向特性の影響— 研究時報 14 (10),
737~742 (松野光雄と共著)

PPI スコープを利用した RHI 表示について 測候時
報 28(8), 336~338.

昭和41年度藤原賞受賞者推せん理由

大気の熱収支および放射平衡に関する研究

真鍋 淑郎

(General Circulation Laboratory, U.S. Weather
Bureau)

真鍋淑郎氏は日本海の熱収支をはじめとして、地球大
気放射平衡、放射及び水収支の影響を考慮して大気循
環の数値実験的研究等を行い、気象学の発展に大いに寄
与した。

日本海の熱収支の研究は熱収支法によって消洋と大気
との間のエネルギー交換を解明したもので、この種の研
究の代表的なものの一つとして高く評価されている。また
地球大気放射平衡の研究は水蒸気、炭酸ガス、オゾン等
の複雑な吸収性およびこれら大気成分の分布特性を
導入し、従来困難なものとしていた放射平衡方程式の
数値解を求めたもので、その結果は大気熱収支の解明
に欠かすことの出来ない基礎資料である。さらに同氏は
大気循環の研究の今後の方向を示向を示すと思われる一
連の研究に着手し、既に多くの成果を挙げている。即ち
同氏は大気構造としては多層モデルを考え、循環機構の
要因としては放射、水収支等を適格に導入することによ
って複雑な大気循環の模様を数値実験的に再現すること
に成功している。

これら一連の研究は今後のこの分野の研究に指針を与
え、気象学の体系化に大きく寄与するものと思われるの
で、氏の業績を高く評価し、ここに藤原賞を授与する次
第である。

関係論文

- S. Manabe, 1956: On the contribution of heat released by condensation to the change in pressure pattern. *J. meteor. Soc. Japan*, **34**, 308~320.
- S. Manabe, 1957: On the modification of air-mass over the Japan Sea when the outburst of cold air predominates. *J. meteor. Soc. Japan*, **35**, 311~326.
- S. Manabe, 1958: On the estimation of energy exchange between the Japan Sea and the atmosphere during winter based upon the energy budget of both the atmosphere and the sea. *J. meteor. Soc. Japan*, **36**, 123~134.
- S. Manabe and F. Möller, 1961: On the radiative equilibrium and heat balance of the atmosphere. *Mon. Wea. Rev.*, **89**, 503~532.
- F. Möller and S. Manabe, 1961: Über das strahlungsgleichgewicht der Atmosphäre. *Z. für Meteor.*, **15**, 3~8.
- S. Manabe and R.F. Strickler, 1964: Thermal equilibrium of the atmosphere with a convective adjustment. *J. atmos. Sci.*, **21**, 361~385.
- J. Smagorinsky, S. Manabe and J.L. Holloway, 1965: Numerical results from a nine-level general circulation model of the atmosphere. *Mon. Wea. Rev.*, **93**, 727~768.
- S. Manabe, J. Smagorinsky, and R.F. Strickler, 1965: Simulated climatology of a general circulation model with a hydrological cycle. *Mon. Wea. Rev.*, **93**, 769~798.

第13回 風のシンポジウム研究発表募集について

1. 期 日 1966年11月18日(金)
2. 会 場 気象庁内
3. 共催学会 日本気象学会・日本海洋学会・日本建築学会・土木学会・日本航空学会・地震学会・日本地理学会・日本林学会・日本農業気象学会(幹事学会)
4. 研究発表申込 8月25日(木)までに発表者(所属)、題目、所要時間、スライド有無を下記に申込むこと。

記

東京都千代田区大手町 気象庁観測部測器課 竹内清秀